

スピリチュアルケアとしてのAI人生史アプリ開発構想

西九州大学子ども学部
心理カウンセリング学科
教授 安藤満代

- ・超高齢化社会で医療費を抑えるために国は真に必要な医療に絞っていこうとする。どのような医療を受けたいか、人生の最終段階をどのように過ごしたいかは、その人の生きる意味感というスピリチュアルな問題に関係する。



- ・人生史は、本人の生きる意味の構築となりスピリチュアルケアとなる。また本人、家族、医療・介護の関係者にとってもACP(Advance Care Planning)の作成でも有効と考えられる。従来、各会社の「自分史作成」は、高額。そこで、安価で自分史を作成できるアプリの開発が必要。



- ・AI人生史アプリは、アプリの質問に従って、口頭で本人が人生を振り返ることで、文字になり、さらにAIがそれにふさわしい、写真や絵をいれてくれる(構想段階)。企業よ共同開発し、多くの人が使えるように、アプリを販売していきたい。